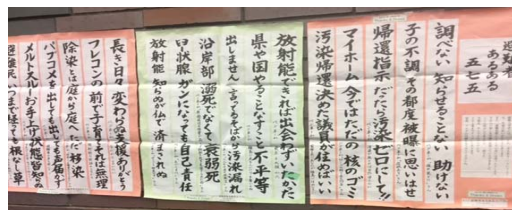


ふるさとを離れて

写真は昨日レポートしたシンポジウム会場に掲示されていた「避難者あるある五七五」の一部。長期にわたる避難者の切実な声が綴られている。シンポジウムで発言した避難者の方が、朝日新聞9日朝刊に掲載されていたので抜粋して紹介したい。



あの日、1歳の息子と福島県須賀川市の自宅2階にいました。外は雪模様でした。携帯電話から聞き慣れない警告音。地震が来る、どうしよう。バターン、ドーンという大きな音。ピアノが傾き、ドアが外れ、200^{キロ}ある暖房機が倒れました。震度6強でした。夫は仕事でいません。息子と約20^{キロ}離れた三春町の実家に避難しました。翌日、東京電力福島第一原発で爆発が起きました。原発まで約40^{キロ}の三春町は町民に安定ヨウ素剤を配り始めました。ヨウ素剤？ 初めて聞く薬でした。町の文書に「安定ヨウ素剤には放射能による甲状腺ガンの発生抑止効果がある」と書いてある。「放射能」という文字に、ただごとではないと震えました。息子の分だけでも手に入れようとしたのですが、住民票がなく、だめでした。親としてふががなく、少しでも遠くへ逃げよう決めました。



どこへ避難すれば安全だったのか。誰も教えてくれません。とにかく西へ。3月17日、弟のいる東京に逃れ、まもなく江戸川区の都営住宅に入れました。でも、金町浄水場（葛飾区）が放射能で汚染され、乳児への水の摂取制限措置がとられました。近所の公園は汚染のためロープが張られ、子どもが遊べません。そのころ、息子は頻繁に熱を出して吐き、やせてしまいました。放射能の影響かはわかりませんが、東京を出ようと決めました。……事故から1年後、(大阪)北摂の避難者支援住宅に入れました。避難者支援住宅は入居制限があり、私と息子は2015年2月、同じ北摂の家賃のかかる2Kのアパートに引っ越しました。

今は息子が健康になり、当たり前のようにお風呂に入れて布団で寝られる幸せをかみしめています。大阪の人は閉鎖的じゃないのがいいです。この1月にはインフルエンザで息子と2人2週間寝込んだのですが、支援者がご飯を作りに来てくれたり、近所のママ友が差し入れしてくれたりしました。全く無縁の土地でしたが、大好きです。

実は汚染から逃れ、自力で避難した人が隠れて暮らすケースが多いんです。被曝から逃れる権利が確立されないといけないし、そのために声をあげていきたいと思います。2月には松原市の中学校の防災の授業で体験を話す機会がありました。関西の私大からも授業で話をするととの依頼が来ました。原発事故からの避難の実態を話すことで、若い人たちが日本のエネルギー問題に関心を持っていただけたらと願っています。

(2018年3月13日)